

第10回補助金等適正化推進協議会議事録

1 日 時 令和8（2026）年9月2日（水曜日）午後4時から午後5時まで

2 場 所 柏崎市役所4階 4－1会議室、市長応接室

3 出席者

(1) 委 員 小川会長、近藤副会長、阿部委員、大橋委員、斎藤委員、遠山委員
(欠席委員なし)

(2) 事務局 財務部長、財政管理課長、財政係長、財政係員

4 概 要

全219件の補助金・負担金について、評価結果の内容を最終確認し、市長に対して評価結果報告書を提出した。

5 議 事

(1) 議事録確認

第8、9回議事録の内容について、修正の有無を確認する。修正なしのため、ホームページに掲載する。

(以上について、質疑なし)

(2) 評価結果報告書（案）について

評価結果報告書の内容確認を行い、最終承認した。

6 報告書提出式

委 員 219件の評価を終え、本市の市民や市内事業者への支援体制は充実していると感じた。一方で、利用件数の少ない補助金があるので、効果検証をしながら利用促進を図るとともにPRしていく必要があると感じた。また、他市にはない本市独自の補助金も多くあり、その独自の面を伸ばしていくという意図も感じられたので、今後に期待する。

委 員 本協議会の委員を引き受ける際、市民生活の向上につながることに中立な視点を持つことを基準として評価をしてきた。加えて、指摘すべきところは発言させてもらった。手厚すぎると感じる補助金もあれば、医療や障害といった民間では支援できないような補助金については、増額の要望もさせてもらった。大変な業務ではあったが、委員一同、一生懸命務めたので、来年度以降の予算に反映していただきたい。

委 員 これだけ多岐にわたる補助金等がある中、丁寧に資料作成いただいた事務局及び適切な議事運営をしていただいた会長、副会長に感謝申し上げる。また、不慣れな分野が多くあったが、各分野の委員の活発な意見から納得し、勉強させていただいた。

10年前に比べ情勢は厳しい状況へ変化しており、10年後もどのような状況になっているか分からない。補助金は市民にとって必要なものであると思うので、この報告書が今後の補助制度に適切に活用さ

れることを期待する。

委員 柏崎出身であり、本市のために客観的な視点から意見を述べさせてもらった。評価する際、効果検証がされているかどうかを基準とし、補助金とはいえ投資という考えの下、効果が得られているかを評価した。大変な業務ではあったが、ふるさと柏崎に貢献したいという思いから、たくさん発言させてもらった。このような機会をいただいたことに感謝申し上げる。

委員 率直な感想として、知らない補助金が多くあったので、自分の仕事にいかしたいと感じた。評価に当たっては、前例踏襲という安定と財政縮減という変化の相反する考えを見極めることが難しかった。この仕事を引き受けた４月から全国的に自然災害が発生しており、想定外のコストが発生している。今後の財政状況は不透明ではあるが、一市民として柏崎の活性化につながるような行動をしていきたいと感じられる機会となった。

委員 ５か月間、２１９件という大変多くの補助金等について、会長始め委員一同、事務局と評価できたことに感謝申し上げます。また、各分野の委員の意見からたくさん勉強させてもらった。

２１９件は、本市の全補助金等の一部であるが、評価する中で本市の抱えている問題点が顕在化していると感じた。特に医療の分野は、市民の生命や身体に関わるため、手厚く補助していることや介護、福祉、農業では、生活に必要な補助金も多くあることを知ることができた。

また、廃止か継続かの二者択一ではなく、継続するのであればどのような形で残すべきかという方針をもってより良い制度となるよう評価した。本市の今後の補助制度がより良いものになることを期待する。

市長 ５か月間に１０回という２週間に１回のペースで補助金等を評価していただいた委員６名の皆様に心から感謝申し上げます。報告書を拝見し、非常に多くの意見を付していただいたと感じている。

多くの補助金等を各分野の視点から評価するだけでなく、具体的な意見も付していただいた今回の評価結果を議会にも提示し、議員の皆様と議論をさせていただく。できる限り来年度以降の予算に反映させたいと考えている。改めて評価していただいたことに感謝を申し上げます。